

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 16日

1. 職名・氏名 教授 亀田 勝見

2. 学位 文学博士、専門分野 中国思想史、
授与機関 京都大学文学部、授与年月 1999年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 導入ゼミナール（前期、2単位、毎年開講、2クラス） 1年生 ※ 旧カリキュラムの海洋資源学部生は「導入ゼミ」	
② 内容・ねらい 教員の専門である東洋の分野を題材として、大学に入学したばかりの一年生に、大学での資料収集・作成や発表などの基本ルールを身につけさせる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業の序盤では、大学に入って間もない学生のために、大学での学習のしくみや心構え、時間割を埋める作業の補助を行う。これと並行して、教員との連絡の取り方や日本語能力などの基礎スキル養成を実施する。その際、グループを作成しグループ間で作業内容の正否を討論させた上で正誤のチェックを行った。 中盤では、日本語スキル向上の継続を中心に、グループワークで不適当な表現や誤った文章作りなどを自己解決していく面を重視して指導を行った。 終盤では、あらかじめ個々の学生に選ばせていたテーマ発表の準備を行わせた。これと並行して、レポートの書き方やプレゼンテーションの基礎についても、以前と同様グループワークによる解決を中心として指導した。最終発表では、ここまで指導した内容を踏まえて資料を伴う口頭発表を行わせ、学生からの質疑応答へと進めた。	
① 教養ゼミナール（後期、2単位、毎年開講、2クラス） 1年生 ※ 旧カリキュラムの海洋資源学部生は「教養ゼミ」	
② 内容・ねらい 前期の「導入ゼミナール（導入ゼミ）」を引継ぎ、大学生として必要な日本語力、発表技能、論文レポート作成能力を養成する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 若者に身近なサブカルチャーを題材とし、中国の文化や歴史に関連した考察にからめた発表とレポートを作成させた。題材は個々の好みに任せて選ばせ、それらをいかに学術的な文脈で捉え考察できるか、を指導した。	
① 東洋思想（前期・後期 2単位、毎年開講）	
② 内容・ねらい 古代から続く中国思想について、各種テーマに焦点を絞り、その歴史的変遷を理解させる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テーマを4つに分け、それぞれを古代から近代以前の清代まで、歴史的変遷を解説した。テーマ間には密接なつながりがあり、時間軸で話を追いかけるうちに以前学んだテーマにおけるそれとの関係性が明確になるように努めた。 授業にはスライドを用いたが、ともすれば文字ばかりを追いかけて理解が追いつかない分野であるからこそ、効果的な表やイラスト、動画を積極的に取り入れ、感覚的な理解による助けも最大限活用した。	
① 東洋史（前期・後期 2単位、毎年開講）	

② 内容・ねらい
中国の歴史について、特に「戦乱の時代」に注目する形で王朝変遷や社会の変化を学び、安定の時代と相互に影響関連する歴史事象を理解させる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
昨今人気の漫画・アニメ『キングダム』を例に出すことで、秦の中華統一までの流れを理解する助けとした。また、『項羽と劉邦』『三国志』など、頻繁に小説や漫画で扱われる題材も同様に活用し、ビジュアル的な要素も加えることで理解を促した。
① 東洋の世界（前期・後期 2単位、毎年開講）
② 内容・ねらい
東洋の文化、特に日本と中国の比較を中心に据える形で、いくつかのテーマに沿ったトピックを紹介し、日本と中国双方の文化に対する理解を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
漢字や家族の意識、暦や干支、食文化、さらには死生観など、いずれも日常触れる文化要素について、その源流や日中の相違、それぞれの要素に込められた文化的意味や歴史的経緯など、様々な面から紹介することで、自らとは無関係ではない文化のより広く深い意識形成に努めた。
授業にはスライドを用い、写真や動画も積極的に活用して理解の助けとした。また、特に死生観の講義については、現代のサブカルチャーに見られる取り扱われ方も紹介することで、現代日本の若者が無意識にとらわれている見方への自覚を促した。
(2)その他の教育活動
公開講座「日本の文化と社会」（全6回） 担当：第2回（8/7）。 タイトル：中国思想史から：「不老不死」の昔と今 古今東西に散見する「長寿」「不老」「不死」への憧れと渴望について、古代東アジアの歴史的展開を一般人向けに語る。専門が中国思想史なので、古代中国に発生した「仙人」の概念および道教における不老不死獲得の術を紹介するのはもちろん、古代日本、特に福井県小浜市に伝承のある八百比丘尼伝説や『竹取物語』などのエピソードをも取り上げた。 最後に、現代にはびこる「不死願望悪玉説」を取り上げ、昨今はやっているサブカルチャーをその題材に用いた。多くの現代人が無意識にとらわれているこの考え方を意識してもらうことを通じ、「自分に都合のよい“多様性尊重”」になっていないか、自省してもらうことを結論とした。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 【 0本】
② 学術論文（査読あり） 【 0本】
③ その他論文（査読なし） 【 0本】
④ 学会発表等 【 0件】
⑤ その他の公表実績 【 0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし。研究を進める上で外部資金まで必要としないため、応募していない。
(3)特許等取得

(4)学会活動等
・ 日本道教学会理事 2022 年度～ ・ 『王勃集』読書会（宇佐美文理代表） 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に 1 回程度、訳注案作成を担当した。2021 年度から新型コロナ関連で休会中。 ・ 「道教思想研究会」読書会（金志玟代表） 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 1 年に 1 回程度、訳注案作成を担当する。オンライン会議で月 1 回開催。

5. 地域・社会貢献

・ 福井県漢詩人協会会長の川口義夫氏が手掛ける『松平春嶽漢詩集訳注（仮題）』について、訳注作成と出版に向けた作業の協力を担当している。長年にわたり川口氏が作成してきた福井県ゆかりの春嶽公詩集の訳注について、亀田からは漢文の専門家という立場から複数年にわたって助言と訂正を行う。漢文解釈や語注・解説などの一次検討を終え、一昨年度からは書籍化に向けた作業に入った。今年度は二次検討を進め、初稿レベルの原稿を 6 割程度仕上げ、出版書式に改めた上で再度内容の是非を検討中。三次検討が進む来年度を目処に、出版作業へと作業を進める。 ・ 本学のサークル「fpu 太極拳サークル」を主催。 サークル顧問であるとともに、学内外の学生・教員・留学生および一般人を広く招き、太極拳を指導。今年度から担当科目や時間割が大幅に変更となったため、昨年度まで参加していた非常勤講師の先生方との都合が合わず、今年度については活動を休止中。

6. 大学の管理・運営

(1) 補職
(2)委員会・チーム活動
・ 共通カリキュラム全学会議メンバー
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・ 第二外国語担当の非常勤講師取りまとめ役（国際センター管轄分も兼任）